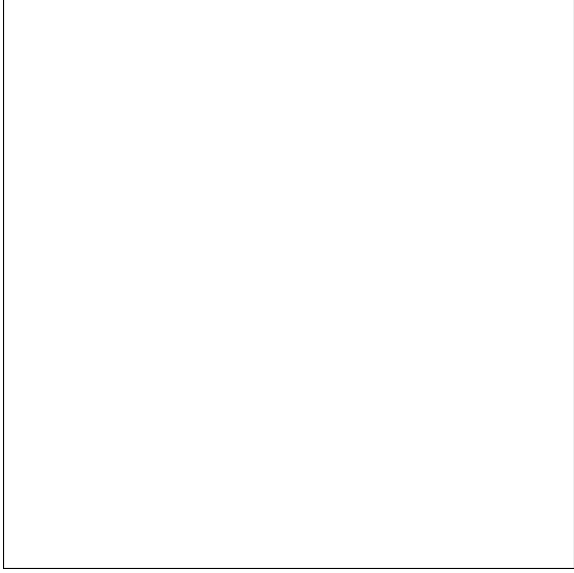


小さな種：ツツカリ・ヌータイの

物語



✎ Nicola Rijdsdijk

👤 Maya Marshak

✉ Kei Fukumoto, Konomi Nakagawa, Sayaka

Yamamoto, Saari Yoshida

😊 Japanska

|| nivå 3



(utan bilder)



Sagor för barn på svenska

[berattelser.se](https://berattelser.se)

小さな種：ツツカリ・ヌータイの物語

Skreven av: Nicola Rijdsdijk

Illustrerad av: Maya Marshak

Översatt av: Kei Fukumoto, Konomi Nakagawa,

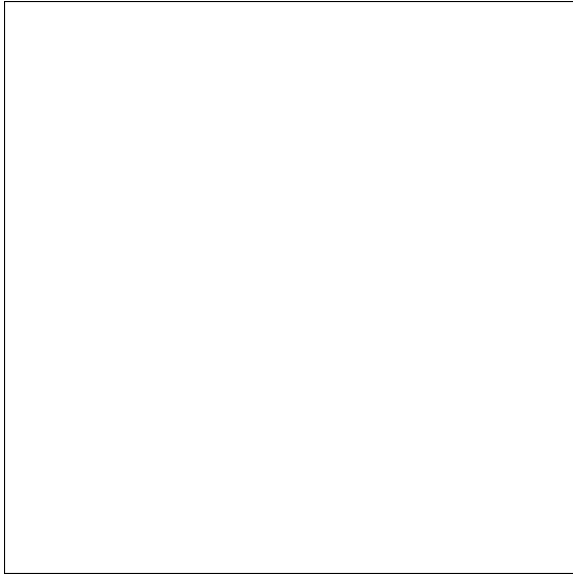
Sayaka Yamamoto, Saari Yoshida

Denna saga kommer från African Storybook ([africanstorybook.org](https://africanstorybook.org)) och vidarebefordras av Sagor för barn på svenska (<https://berattelser.se/>), som erbjuder sagor på många språk som talas i Sverige.

Detta verk är licensierat under en Creative Commons

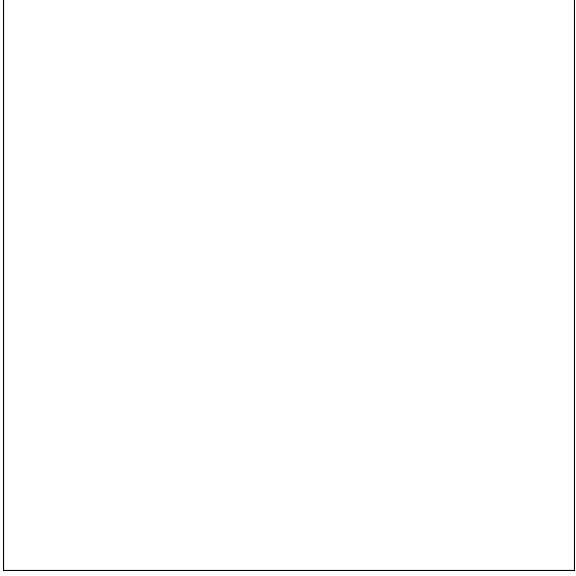
[Erkännande 4.0 Internasjonal Licens](https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.sv).

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.sv>



アフリカの東の方にあるケニヤ山のあたりに村があります。そこでお母さんと畑仕事をしている女の子がいました。女の子はワンガリといいます。

ワシガリは、外で遊ぶのが大好きでした。ワシガリは、おうちの野菜畑に、アチエテを使って土を柔らかくします、暖かい土壌に小さな種を植えました。





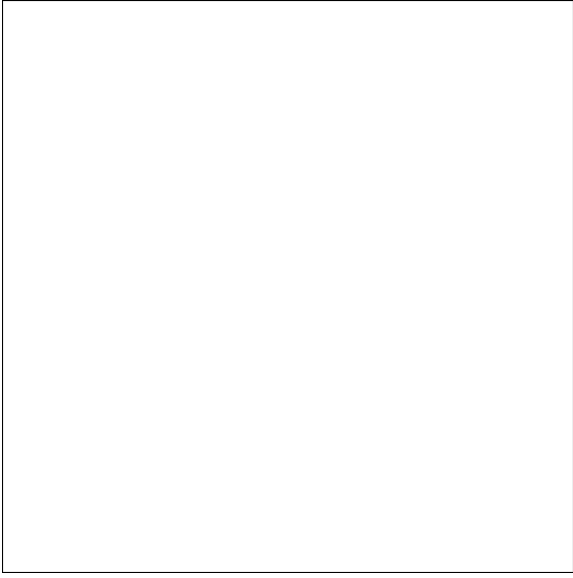
ワンガリは、一日の中で夕焼け後の時間が一番大好きでした。暗くなって、畑の野菜が見えなくなるとワンガリはおうちに帰るので、畑に沿って狭い小道をたどり、いくつか川を横切り家路につくのでした。



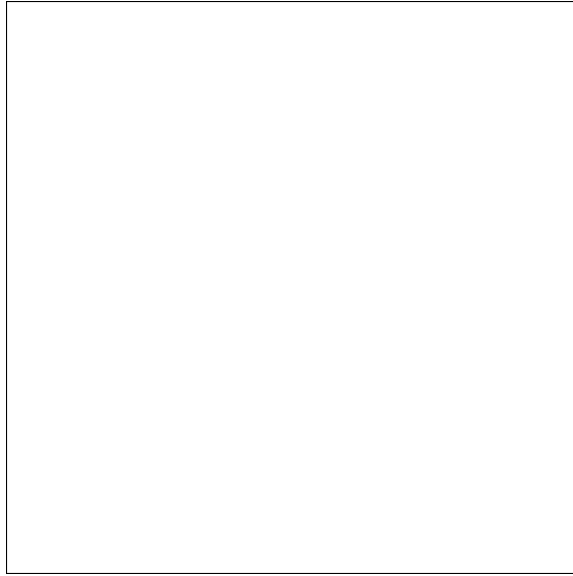
ワンガリは、2011年に亡くなりました。しかし、美しい木々を見て、今でもワンガリのことを思い出しています。



ツンガリは頭が良かったので、早く学校に行きたくて仕方ありませんでした。しかし、ツンガリのお父さんとお母さんはツンガリに学校に行かせたくありませんでした。ツンガリに、もっとおうちの手伝いをし欲しかったからです。しかし、ツンガリが7歳になった頃、ツンガリのお兄さんとお父さんとお母さんに、ツンガリが学校に行けるよう一生懸命頼んでくれたので、ついにツンガリは学校に行けることになったのです。



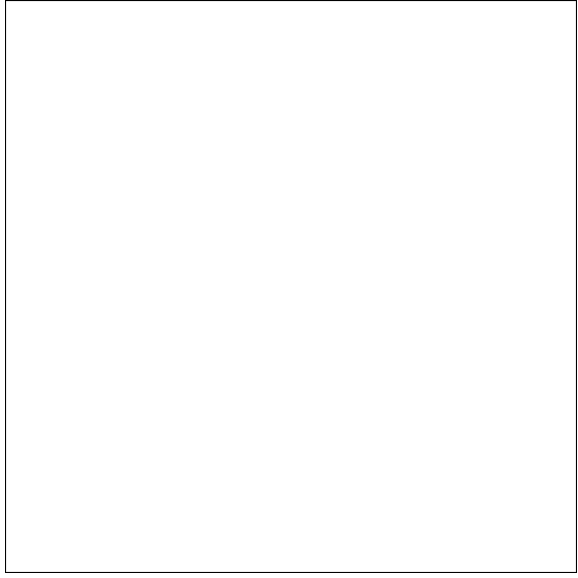
ツンガリは一生懸命働きました。世界中の人々が彼女に注目しました、有名な賞をあげました。それは、ノーベル平和賞という賞です。ツンガリは、アフリカの女性で初めてノーベル賞をもらうことができたのです。



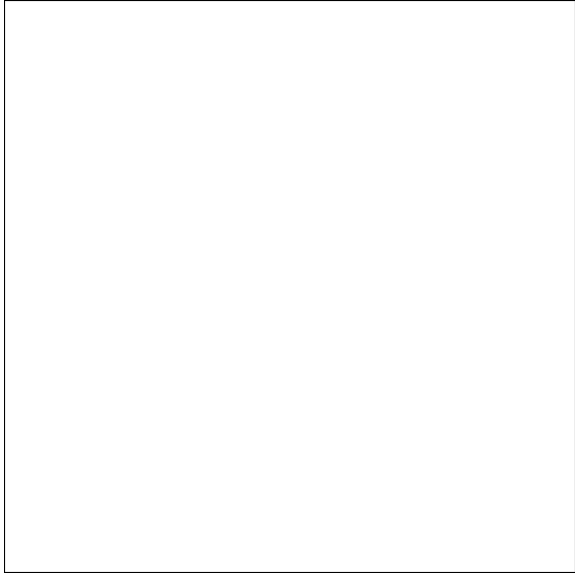
ワンガリは勉強をするのが大好きでした！ワンガリはたくさんたくさん本を読んで勉強しました。学校で良い成績をおさめていたワンガリは、アメリカの大学に行けることになりました。ワンガリはとても喜びました！もっとたくさん世界のことについて学べるからです。



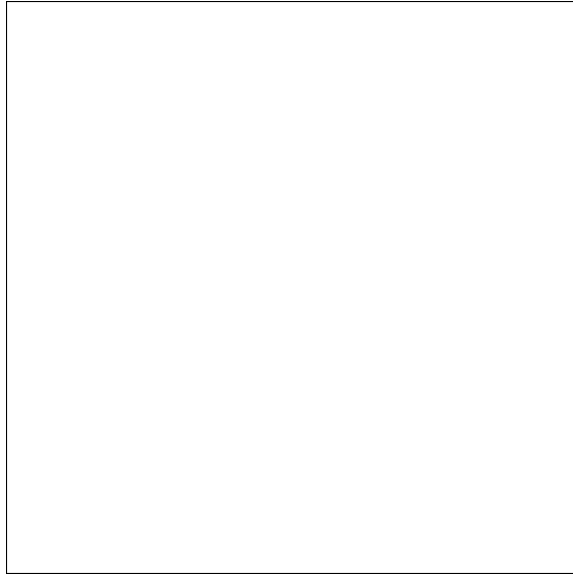
時間が過ぎて、種が木になり、新しい木が森に育ち、川の水が再び流れ始めました。ワンガリの教えはアフリカ中に広まり、今日では何百万もの木々がワンガリの種から育ちました。



アメリカの大学でワシントン州には知らなかったことをたくさん学びました。植物や植物の育て方も学びました。これらの勉強はクニヤのきれいな森にある木々の陰でお兄ちゃんと遊んだワシントン州の幼少期の記憶をよみがえらせてくれました。



ワシントン州は素晴らしいのを知っています。女性たちに種から木を育てる方法を教え、彼女たちは木を売り家族を養うお金を稼いぐことができます。みんながとても喜びました。ワシントン州は人々が強くなれるよう、手助けをしました。



アメリカの大学でたくさん勉強しているうちに、ワンガリはケニアの人たちが恋しくなりました。ワンガリは、大好きなケニアの人たちを幸せに、自由にしてあげたいと思うようになりました。たくさん勉強すればするほど、アフリカにある自分の家のことを思い出しました。



大学での勉強を終えると、ワンガリはケニアに戻って来ました。しかし故郷の環境は大きく変わっていました。巨大な農場があたり一面に広がり、女性たちは火をおこすための木さえ手に入れることが出来ず、人々は貧しく子供たちはおなかをすかせていました。